KWANSEI GAKUIN SCHOOL OF THEOLOGY

関西学院大学

神学部報

No.121　2023.6

5月8日（月）、関西学院大学の古くからの協定校であるカナダのマウント・アリソン大学から日本の宗教について学ぶため11名の学生と教職員2名が西宮上ケ原キャンパスを訪れ、神学部生約30名と交流しました。交流会では、岩野祐介神学部長が「History and Present State of Japanese Christianity」と題して日本におけるキリスト教の歴史と現状について講義したのち、両大学の学生同士でグループに分かれてディスカッションをしました。学生達は英語でのディスカッションでも大いに盛り上がり、両大学の親睦を深める良い機会となりました。

Instagram

KCTHEOLOGICA

発行　関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501　西宮市上ケ原一番町1-155
電話 (0798) 54-6200　FAX (0798) 51-0936
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook

2023年度　始業礼拝メッセージ
「新しい人」

神学部長　岩野 祐介

4月10日　於：関西学院会館　レセプションホール

新入生の皆さん、関西学院大学神学部へようこそいらっしゃいました。2023年4月から学部長に就任いたしました岩野祐介です。私たちは皆さんを心から歓迎いたします。私も自分の入学式の頃のことを思い出そうとしてみましたが、当時同じ寮に住んでいた寮生の仲間と入学式に出た、ということくらいしか覚えていませんでした。ですから、私がここで話すことよりも、いま一緒に始業礼拝に出ている仲間とのことの方が、きっと記憶に残っていくだろうと思います。よってここでは簡単に、ようこそいらっしゃいました、と申し上げます。今日は4月10日（月）、昨日はイースター、復活祭でした。先ほどお読み頂いた聖書箇所（ヨハネによる福音書20：14-17）には、イースターの出来事が描かれています。マグダラのマリアがイエスの墓に行ってみると、誰かが墓の入口を開けていて、ご遺体がない。マリアは恐れ、パニック状態になって泣いてしまったという場面なのです。そのマリアはどうやって我に返ったか。イエス様が、「マリア」と呼びかけることによってです。マリアは「ラボニ」（先生）と返事しています。先生としてのイエス様が、いつものように、マリアに呼びかける声を聴いて、我に返ったのです。それほどに、先生とマリアとの関係は親しみ深い、馴染み深いものだったのでしょう。何かを教わる、共に学ぶ、共に生活するということは、強い結びつきを生み、それが「私」を作っていっている、ということが見えてくるように思います。ところが、単に以前の先生と弟子という関係に戻ったのかというと、そうではない。この時から新しい関係にもまたなったのです。なぜなら、この世において色々と教わった先生であるイエスが、人類すべての救い主として、復活された。そのイエスに新しく改めて出会ったともいえるからです。弟子たちのもとに戻ったマリアは、「主を見ました」と言っています。このときマリアは、本当の救い主としての主に出会ったのだと思うのです。そして、「私を本当に救う方」に出会えたら、人は変わり、新しい人になれるのではないか、と思います。必ず救ってくださる方がおられるのだから、絶望するしかないどうしようもないことなどなくなるのです。マリアだけではなく、ペトロ等イエスの弟子たちも、新しい人になっていきます。イエスが捕まった時逃げてしまった弟子たちも、イエスを「知らない」と三度も言ってしまったペトロも、力強く福音を宣べ伝える使徒になっていきます。私たちもまた、新しい人となり、生き方を変えることができるのです。それは、新しい出会いによっておこることのような気がします。私は教員ですので、先生と弟子について主に申し上げましたが、学生同士、その他これから出会っていく人たちとの関係はとても大事な、あなたを作っていく体験であり、また新しい生き方や考え方に導かれる体験をもたらすものになるのだと思います。ぜひ様々な場で新しく出会い、新しい人になる体験をしてみてください。よい一年になりますよう、よい大学生活の始まりになりますよう。

あいさつ

副学部長（教務担当）　小田部 進一

世界情勢が目まぐるしく変化し、科学技術の進歩が加速する現代社会、そして情報が溢れかえる時代の中で、私たちは溺れかけていないでしょうか。また、私たちは便利なモノに身も心も囚われ、ますます自分の力を失っていく経験をしていないでしょうか。もしかすると、何度も立ち止まり、じっくりと時間をかけて物事を観察し、自分で考え、他者と議論できる大学生活は、いつにもまして重要で貴重な時間となっているのかもしれません。自然にも恵まれた関学のキャンパスで、皆さんが充実した学生生活を送ることができることを願っています。

あいさつ

副学部長（学生担当）　橋本 祐樹

COVID-19の位置づけが「5類」に引き下げられることを受けて、改めて大学の様相も変わりつつあります。キャンパスは賑わいを取り戻してきています。先日、神学部チャペルでは関西学院グリークラブの合唱を伴う礼拝を守ることもできました。学生たちの間でも対面での交流がいよいよ進む中で、コロナ禍とは異なった仕方での課題が生じてくることでしょう。神学部の強みである少人数制を生かして、学生たちを丁寧に見守り、対応していきたいと考えております。学生たちのよりよい学びのために、どうぞお祈りください。

新設奨学金について

神学部長　岩野 祐介

関西学院大学神学部では、2023年4月1日より「関西学院大学神学部学業・研究奨励奨学金」制度を新たに設けました。この奨学金は、関西学院大学神学部で学ぶ学生のため活用してほしい、とのご意志のもと、ご寄付くださった遺贈寄付金を資金としています。学部生、前期課程と後期課程の大学院生を対象として、学業成績優秀者に支給される奨学金になります。また後期課程在学生に関しては、全国規模の学会等において査読付き論文を公刊した者に対しても支給される予定です。

2020年以降のCOVID-19の影響や、昨今では物価の上昇など、現在もお金に関する不安を抱えながら学んでいる学生が多数おります。このような形で、関西学院大学の神学部で学ぶ学生をお支えいただけますことに、またそのような志をお持ちの方と神学部とを結びつけてくださった教会のお働きに深く感謝申し上げます。引き続き皆さまのお支えとお祈りとをお願い申し上げます。

ご寄付、ご遺贈については、神学部事務室(0798-54-6200)までお問い合わせください。

新入生オリエンテーション報告

副学部長(学生担当)　橋本 祐樹

2023年4月3日(月)～5日(水)に新入生32名(1年生29名、編入生3名)を迎えて新入生オリエンテーションを行いました。1日目は、入学式と神学部チャペルでの宣誓式の後、関西学院大学での学生生活、神学部チャペル、図書室利用について説明しました。2日目は、授業の履修指導、並びに学生生活に不可欠なパソコン関係の講習を行いました。3日目は、まず2年生の学生スタッフ4名の協力を受けてキャンパスツアーを行い、先の2日間と同様にこの日も晴天の下、桜の花の多く残る中で、利用する教室のある建物、食堂、生協、図書館等を皆で和やかに見て回ることができました。教室に戻ってからは学生スタッフのリードで新入生自身に関連するワードを用いてしりとりゲームを行い、笑い声の響くよい交流の時を持ちました。その後、関西学院大学の国際交流プログラムや学生の学習と取り組み等を管理するアプリ「K.G.ポートフォリオ」等の説明を受けました。

4/5(水) キャンパスツアーの様子

ディアコニア・プログラム報告

森本 典子 専任講師

ディアコニア・プログラムは、知識、体験、実践をもとに構成された神学部独自のプログラムです。スクールモットーであるMastery for Serviceを具体的に学ぶことができます。本プログラムは、神学部生だけではなく、他学部生、科目等履修生にも開かれており、13のディアコニア・プログラム関連科目と2年にわたるディアコニア・ワークショップを修めることで、ディアコニア・プログラム修了生に認定されます。

2022年度のディアコニア・プログラム成果発表会は1月16日(月)に開催されました。2名の学生がそれぞれ「個人のディアコニアの一考察　自死念慮者に対する経験から」と「ヤングケアラーに対して教会は何ができるのか」をテーマに報告をしました。2023年度は4名がプログラムに参加する予定です。

ここ数年は、ディアコニア・プログラムに興味があるという理由で関西学院大学の神学部を受験する学生もおり、8年間継続してきた手ごたえを感じています。

日本基督教団四国教区派遣神学生　研修報告

＜期間＞3月9日（木）～3月14日（火）　＜場所＞日本基督教団　高知教会／日本基督教団 芸西伝道所
日本基督教団　高知中央教会／椿原集会所（日本基督教団須崎教会の出張伝道所）

日下部 光喜　キリスト教伝道者コース4年（当時）

高知教会

3月9日（木）～3月14日（火）までの6日間、私は四国教区への派遣で高知県内の高知中央教会、高知教会、芸西伝道所、椿原集会所の計4箇所で礼拝と祈祷会に出席（安芸教会、高知東教会、須崎教会にも訪問）し、良き学びと交わりの時を過ごさせていただきました。

研修では、現地の教会の姿から「教会の温かさ」を知ると同時に、これからのキリスト教会が向き合うべき課題について考えさせられました。四国教区では「祈ろう四国教区の教会」という冊子をもとに、各地の教会を覚えて祈っておられます。各地に広がる教会が一体となって伝道に励まれていることが印象的でした。教会によって抱えておられる困難や課題は様々ですが、共に覚えて祈り合う姿に心打たれました。これからは私もキリストに結ばれている一人として、自分の思いだけを祈るのではなく、互いに祈り合う交わりの中に加わっていきたいと願います。教会は様々な問題に直面していますが、その中で四国教区のようにそれぞれの違いを認め合い、共に歩んでいくことも大切なことだと感じました。

今回、関西学院大学と四国教区が協定を結んでから初めて研修が行われましたが、快く受け入れてくださった四国教区の牧師先生や温かい言葉をかけてくださった信徒の方々には心から感謝いたします。ありがとうございました。

草地 賢太　キリスト教伝道者コース4年（当時）

関学神学部と四国教区との協定をもとに、四国教区への派遣に行ってまいりました。本プログラムでは、「高知の教会・伝道所の姿に触れる」ということに重点が置かれており、来訪した教会や伝道所の祈祷会や主日礼拝に実際に出席させていただき、そこに通う人々との交わりの中で、様々な学びを得ることが出来ました。

その中でも、私が高知を訪れて特に感じたのは、「他教会との繋がり」を大切にしておられるということでした。それが見て取れる取り組みの一つとして、自由献金が財源の「互助制度」という、牧師の謝儀を援助するための制度が四国教区にも設けられていました。一方向的に支えるという関係性でなく「互いに支え合う」という関係性を築いておられるのが印象的でした。このような、双方向的に影響を与える教会同士の協力関係によって、教区全体の一体感が形成されているように感じました。

今回の学びを通して、これから教会を支えていく一人として学ばなければならない姿勢をもう一度確認することができました。お世話になった皆様、ありがとうございました。

須崎教会の出張伝道所

留学報告

キリスト教思想・文化コース4年　森田 菜津

2022年4月～2023年2月までの10か月間、私は韓国のソウル大学語学堂へ語学留学しました。母が韓国人であるため、昔から韓国に留学したいという夢があり、大学入学後その夢を叶えようと思っていました。しかし、COVID-19の影響もあり、関西学院大学の交換留学では条件に合うものがなく、個人で語学留学に行くことを決心しました。個人で行くため、学校選びから入学の手続きまで全て自分で行わなくてはならず、苦労もありました。ソウル大学の語学堂では、様々な国から来た留学生たちと韓国語を勉強しました。最初はお互い韓国語が不慣れで、意思疎通自体が困難でした。しかし、私やクラスメイトたちの語学力が上がるにつれ、コミュニケーションを取る楽しさを知っていきました。語学堂であるため、現地の韓国人と知り合うことは難しかったですが、留学生の友達を通じて知り合うことができました。また、様々な留学生たちと関わる中で学びも多かったです。特に印象的だったのはジェンダーに関する考えの多様性で、この知識をこれからの学びの糧にしたいと思っています。大学とは勉強をする場であると同時に、望むことを叶えることができる猶予の時間であると思います。人生の中でも限られたその期間で何事にもチャレンジしてみてください。

学生の声　神学部で学ぶ

キリスト教伝道者コース3年　朝川 優真

Q1.神学部に入学したきっかけは？

私は家族がクリスチャンで元々教会に通っていました。教会にタイ国青少年ワークキャンプの話が来て、参加しました。そこで、何人もの牧師先生と関西学院大学神学部の学生と出会い、関西学院大学神学部がどういった場所なのかという話を聞き、興味を持ちました。

Q2.現在神学部で興味を持って学んでいることは？

僕がいま興味を持って学んでいることは、旧約聖書学です。現代とは違う部分が多い新約聖書の文化や慣習などを理解するために、旧約聖書から読み解いていくことが、学んでいて楽しいと思います。

Q3.将来の夢や目標は何ですか？

現段階では牧師を考えています。私はキリスト教に関わる仕事がしたいと思っていて、その中でも、自分が導かれて牧師先生や神学部の学生たちと出会ったように、誰かの人生の道しるべになるようなことがしたいと思っています。少しでも誰かの助けとなる仕事がしたいです。

Q4.神学部生、神学部入学を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

神学部は学生の人数が少ないからこそ深く学問を学べる場所です。神学はどこでも学べるものではなく、神学部での学びについていけるのか不安な人もいるかもしれません。神学部は人数が少ないからこそ質問がしやすく、理解を深めやすいです。神学に興味があるのであれば、実りのある4年間になると思います。

from the Classroom

旧約聖書の思想 A

井上 智 助教

旧約聖書の思想Aの授業では、ヘブライ語聖書（旧約聖書）の基本的な神学思想について理解し、それらを現代社会に適用する方法を修得することを目的としています。そのため、5つのテーマを設定し、学生による発表と教師による講義を一つのセットとして授業がもたれます。学生による発表、たとえば「神」という項目では、①神と聞くとどのようなイメージをもったのか？、②どうしてそう思ったのか、資料（聖書、絵画、漫画、アニメ等）を用いて説明する、③『ヤバい神』（トーマス・レーマー著、白田浩一訳、新教出版社、2022年）の1章の要約、といった内容を発表してもらった後、学生同士のディスカッションを行います。発表者以外は、①と②については課題として必ず行ってもらい、ディスカッションにおいて、それぞれがどのようなことを考えたかについて共有するのです。キリスト教にとって「神」は唯一ですが、私たちがもっている神のイメージは全く同じということはありません。なぜ、そのようなイメージを持つに至ったのか？そのようなことをも含めながらディスカッションで共有するのです。そうすると、神は唯一だけれども、それぞれの持つイメージは多様であることに気づくことができます。神学部の授業に特徴的なことといえますが、受講生の年齢層は様々です。この授業では、聴講生も学生も同じく発表をしてもらいますが、様々な多様性をここからも感じることができるのです。旧約聖書と聞くと、なんとなく取っつきにくい思いがあるかもしれませんが、このようなことを通して、身近なものとして旧約聖書を考えるきっかけとなれば、旧約聖書に抵抗を感じずに卒業してもらえればと願っています。

第57回　神学セミナー報告　加納 和寛 教授

第57回となる神学セミナーは2023年2月20日(月)「キリスト教の看取り・送り」をテーマに、西宮上ケ原キャンパスF号館203号教室を会場に対面およびオンライン配信のハイブリッド形式で開催されました。

最初のプログラムは中道基夫教授(関西学院院長・神学部教授)より「牧会の課題としての周死期ケア」と題して主題講演がなされ、続いて汐碇直美牧師(日本基督教団奈良教会)が、病院チャプレンとしてのご経験も踏まえて「生から死へのグラデーションを、共に歩む」ことについて話され、また高見晴彦氏(株式会社シャローム代表取締役)および同社の小野留緒記氏がキリスト教専門葬儀社の視点から現場報告をされました。2022年度より神学部に着任された森本典子専任講師は、デンマークでのお働きや自身の家族・友人を看取り、送った経験に触れつつ「寄り添いを超える ディアコニアの視点から考える看取り、送り」について講演されました。最後にシンポジウムが行われ、井上智助教、岸本光子氏(大阪暁明館病院チャプレン)、宮岡真紀子牧師(日本基督教団北千里教会)が登壇され、それぞれの立場から看取りと送りについて意見交換しました。

今回は教会単位でオンライン団体参加された方々も多く、総勢133名(うち対面74名、オンライン59名)の参加者があり、コロナ禍以前の活気が戻ったセミナーとなりましたことを心より感謝申し上げます。セミナーの内容はブックレットとして今年度中に出版される予定です。

主題講演

現場報告

シンポジウム

第24回 キリスト教教育研究集会報告

2022年12月27日(火)10:00～15:30　関西学院高等部 静修室
主　　題：「キリスト教教育の意義と可能性」
講　　演：芦名 定道(関西学院大学神学部教授)
現状報告：大内 麻理(立教女学院中学校・高等学校)
参加人数：25名(内zoom参加2名)

MS セミナー 2023 ご案内

「MSセミナー2023」は8月22日(火)～24日(木)に開催される予定です。神学部・神学研究科を卒業・修了し、2023年度に教会の現場で働いて5年目、10年目を迎えた方には既にご案内いたしましたが、万が一連絡が来ていない場合は下記へご連絡ください。すぐにご案内させていただきます。
関西学院大学　神学部補佐室
TEL.0798-54-6207(FAX.0798-51-0936)
E-mail:thhosa42@kwansei.ac.jp
＜牧会講演＞
牧野 信次(隠退牧師・青山学院大学神学科同窓会長)
松浦 裕介(下ノ橋教会牧師)
＜神学講演＞
芦名 定道(関西学院大学神学部教授)

『神學研究』(70号)のご案内

頒布につきましては、神学研究会までお問い合わせください。

論　文

聖霊の位相の「不分明性」に関する一考察
―近代プロテスタンティズムを中心に― … 加納 和寛

人権研究

旧約聖書における子ども理解
―創世記21:9-21を通して考える― … 井上 智

書　評

Chris Greenough, *Queer Theologies: The Basics* … 薄井 良子

講　演

ブルックナーの宗教音楽 … 根岸 一美

関西学院大学神学部内　神学研究会　TEL.0798-54-6207

■ 2022年度　大学院博士課程 前期課程修了者　論文題目並びに進路

氏　名	題　目	進　路
韓　宣榮	治癒物語の説教分析からみる現代の癒し理解	在日大韓基督教大阪教会
加藤　満	アウターブリッチ賞 ルカ文書における神殿の意義　― 使徒言行録2章46-47a節と7章44-50節を通して ―	日本イエス・キリスト教団名谷教会
金　昭貞	恵みにおける関係性　― ローマ書5章のパウロの恵み（χάρις）理解を中心に ―	神戸改革派神学校
平井志帆子	「教会学校を通じて受洗に至るプロセス」の分析による教会教育の再考	聖隷クリストファー中学校・高等学校
眞鍋 ヨセフ	パウロにおけるIコリント11章の「主の晩餐」記事の引用と贖罪論に関する考察	日本基督教団神戸栄光教会
吉川　祥平	ボンヘッファーの『服従』に見られるキルケゴール受容	日本基督教団塚口教会

【2022年度卒業者】

■学　部：学士28名（進路：本学大学院神学研究科前期課程進学2名、企業等就職16名、医療・福祉・教育団体等就職3名、その他進学等7名。[2023年5月現在把握数]）

※主な就職先…（株）ニトリ、メットライフ生命保険（株）、ファーストリテイリンググループ、（医）悠仁会、（学）西宮教会学園、（株）日能研、TIS（株）

■大学院：修士6名

【2023年度学部・大学院入学者】

■学　部：新入生　29名（日本基督教団教会所属：0名）
■学　部：（3年次、4年次）編入学生　3名（日本基督教団教会所属：2名）
■大学院：博士前期課程　4名（日本基督教団教会所属：3名）
■大学院：博士後期課程　1名（日本基督教団教会所属：0名）

2024年度　神学部・神学研究科入学試験ご案内

■ 2024年度 神学部入試日程

	入試種別	出願期間	試験日
総合型選抜入試	学部特色入試（社会人、外国人留学生含む）	9月　1日（金）～　9月　8日（金）	10月21日（土）
	スポーツ選抜	9月　1日（金）～　9月　8日（金）	9月23日（土） 10月21日（土）
	グローバル入試	9月　1日（金）～　9月　8日（金）	9月23日（土） 10月21日（土）
	探究評価型入試	9月　1日（金）～　9月　8日（金）	10月21日（土）
編入学（3年次）		9月20日（水）～　9月29日（金）	10月14日（土）

入試情報詳細は以下のウェブサイトから確認ください。

◆**神学部**　https://www.kwansei.ac.jp/admissions/
◆**神学研究科**　https://www.kwansei.ac.jp/graduate/admissions/

■ 2024年度　神学研究科入試日程

＜博士課程前期課程＞

	出願期間	試験日
一　般	＜第1次＞ 8月22日（火）～8月29日（火） ＜第2次＞ 2月　8日（木）～2月15日（木）	9月 13日（水）
社会人		
外国人留学生		2月 23日（金）

＜博士課程後期課程＞

	出願期間	試験日
一　般	2月　8日（木） ～ 2月 15日（木）	2月 23日（金） 2月 24日（土）
外国人留学生		

【お問い合わせ先】
関西学院大学神学部　Tel.0798-54-6200
入学センター　Tel.0798-54-6135

第40回 関学ユースキャンプ ご案内

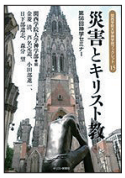
日　　時　2023年8月3日（木）11：00～8月4日（金）17：00
場　　所　関西学院千刈キャンプ
主　　題　「信じる」って、どんなこと？
主題聖句　ヨハネによる福音書20章27節
「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」
講　　師　小林 よう子（日本基督教団 八戸小中野教会 牧師）
参 加 費　6,000円
申し込み先　yfe54221@yahoo.co.jp　林 智之
〒744-0013　山口県下松市栄町1丁目1-19
日本基督教団 下松教会内　電話 0833-41-0707

小林 よう子講師

「神さまを信じる」と言いますが、それはいったいどういうことなのでしょう。「神さまがいる」と信じることでしょうか？それはちょっと違う、とわたしは思います。キリスト教は宗教であり、信仰について考えることになります。それは「生きる」こととどう関わってくるのでしょうか。そんなことをご一緒に考えたいと思います。
（講師より）

教員の近著紹介

関西学院大学神学部編
『関西学院大学神学部ブックレット15：災害とキリスト教』
（キリスト新聞社、2023年2月）



2022年2月21日に開催された、第56回神学セミナーの講演録です。「災害とキリスト教」のテーマの下、『呼び覚まされる霊性の震災学』の著者である本学社会学部教授の金菱清、神学部教授の芦名定道・小田部進一、現場報告として日本基督教団川内教会牧師の日下部遣志、同・三津教会牧師の森分望の講演が収録されています。自然災害のみならず、パンデミックや戦争の時代におけるキリスト教のあり方についてのご参考になれば幸いです。

関西学院大学キリスト教と文化研究センター編
『キリスト教で読み解く世界の映画』　（キリスト新聞社、2023年1月）

関西学院大学キリスト教と文化研究センター（RCC）創立25周年記念事業の一つとして出版された本書は、20-21世紀の転換期以降に作られた、世界および日本の映画110作品をキリスト教の観点から解説しています。神学部教員の加納和寛と橋本祐樹が、打樋啓史RCCセンター長と共に執筆・監修を務めました。36名の執筆者の中には他に神学部同窓や教員から、赤松真希、東よしみ、有住航、家山華子、井上智、岩野祐介、上田直宏、大島一利、大野至、大宮有博、梶原直美、神山美奈子、木原桂二、小田部進一、中道基夫、橋本かおり、朴賢淑、福島旭、福万広信、前田美和子、水野隆一、嶺重淑、美濃部信、村瀬義史、柳川真太朗、山内慎平（以上五十音順・敬称略）が参加しています。1作品の解説を見開き2ページで読み切ることができ、「愛」「悔い改め」「信仰」「正義」「解放」などのキーワード索引、聖句索引等も充実しています。個人のみならず、学校・教会・映画鑑賞会などで映画を通じてキリスト教に触れる際にぜひお役立てください。

芦名 定道 共著　中島 隆博・梶原 三恵子・納富 信留・吉水 千鶴子 編
『扉をひらく哲学――人生の鍵は古典のなかにある』
（岩波ジュニア新書、2023年5月）

本書は、高校生を中心とした若い世代に哲学書に親しんでもらおうと、高校生へのアンケートをもとに企画されました。古今東西の古典から若い世代の問題に答える試みです。キリスト教思想に関連したエッセイ「インターフェイスとしての古典」「他者との関わりをバネに豊かな自分になる――キルケゴールの語る自己」「鳩のように、そして（しかし）蛇のように――イエスが弟子に与えたアドバイス」（芦名定道執筆）が収録されています。

リチャード・B・ヘイズ 著、東 よしみ 訳
『パウロ書簡にこだまする聖典の声：パウロは「旧約」聖書をどう読んだか』
（日本キリスト教団出版局、2023年3月）

Richard B. Hays, *Echoes of Scripture in the Letters of Paul* (New Haven/London: Yale University Press, 1989) の全訳である本書は、テクスト相互間の関係性を指す間テクスト性という概念を聖書学に初めて本格的に導入した画期的な書です。ローマ書、ガラテヤ書、Ⅰ・Ⅱコリント書においてパウロが用いる旧約聖書テクストの分析を通して、パウロの論理を鮮やかに描き出します。最終章で著者は、パウロによる自由で想像的な解釈方法を真似るように現代の読者を招きます。

加納 和寛、橋本 祐樹 共著　関西学院大学キリスト教と文化研究センター編
『ことばの力　キリスト教史・神学・スピリチュアリティ』
（キリスト新聞社、2023年3月）

本著は、現代のインターネット等の発達によるコミュニケーションのあり方や内実の変化を背景の一つとして、キリスト教史・神学・スピリチュアリティといった多角的な観点から「ことば」について検討する論集であり、学内を中心とする7人の教員の論稿が収められています。加納和寛は「神のことばを神学する――その展開および限界に関する一考察」、橋本祐樹は「実践神学と証言――20世紀のドイツ語圏の実践神学に焦点をあてて」を執筆しました。

土井 健司 共著
『「人間の尊厳」とは －コロナ危機を経て－』
（公益財団法人日本学術協力財団、2023年1月）

日本学術会議のシンポジウム（2021年12月5日）をベースに、日本生命倫理学会会長の香川知晶氏と土井健司が中心となって編んだもので、「人間の尊厳」について各論者それぞれの立場から論考を寄稿しています。土井は「第7章 人間の尊厳とトリアージ――キリスト教思想からの応答」という論考を掲載しました。「人間の尊厳」についてその始まりと根本を古代キリスト教思想史から考察し、そこから、コロナ禍におけるトリアージの有する問題性を指摘しています。

2022年度秋学期（9月～3月）神学部日誌

- **9/20** 学部・大学院秋学期授業開始
- **9/24** 神学基礎テスト
- **10/20** 神学部学術講演会「ブルックナーの宗教音楽」（根岸 一美 氏・大阪大学名誉教授）
- **10/26** 神学研究会（岩野 祐介 教授）
- **11/ 5** 新月祭（～6日）
- **11/10** 教会と神学部の集い（神学部後援会主催）
- **11/28** 神学部アドベント礼拝（井上 智 助教）
- **11/30** 神学研究会（井上 智 助教）
- **12/14** 神学部クリスマス礼拝「光を求めて」（森本 典子 専任講師）
- **12/27** 第24回キリスト教教育研究集会「キリスト教教育の意義と可能性」（芦名 定道 教授）
- **1/16** ディアコニア・プログラム発表会
- **1/16** 秋学期授業終了
- **1/17** 阪神淡路大震災記念礼拝（全学）
- **1/25** 神学研究会（小田部 進一 教授）
- **2/ 8** 修士論文口頭試問
- **2/20** 第57回神学セミナー「キリスト教の看取り・送り」
- **2/22** 神学研究会（神学研究科後期課程報告会）
- **3/ 2** 出席教会牧師との懇談会
- **3/ 9** 新卒教会赴任予定者オリエンテーション
  神学部後援会伝道者育成奨励金授与式
- **3/10** 東日本大震災記念礼拝（全学）
- **3/16** 秋学期大学院学位記授与式・修了礼拝
  ／修士（神学）5名
- **3/17** 秋学期大学卒業式・卒業礼拝／学士（神学）26名
- **3/26** オープンキャンパス模擬授業
  『愛はお金で買えますか-宗教と心理』
  （柳澤 田実 准教授）
- **3/31** 土井健司教授、神学部長を退任

※所属・役職等は行事開催時のものです。

中道 基夫 共著
荒瀬 牧彦 編・日本クリスチャン・アカデミー共同研究
『コロナ後の教会の可能性』
（キリスト新聞社、2023年3月）

本書は日本クリスチャン・アカデミーとキリスト新聞社によって行われたアンケートとともに、カトリック、プロテスタント諸教会の教師によって行われた共同研究の成果を収録。コロナ禍によって突きつけられた神学的課題、コロナ後の新たな可能性を提示しています。神学部同窓の浦上充牧師（東中野教会）も執筆。各教会でコロナ後の宣教に役立ててください。